2006年2月8日

沖縄総合事務局長　様
開発建設部長　様
那覇港湾・空港整備事務所長　三宅光一　様
港湾技術指導官　酒井洋一　様
港湾計画課長　嶋倉康夫　様

泡瀬干潟を守る連絡会　共同代表
内間秀太郎　小橋川共男　漆谷克秀
泡瀬干潟生物多様性研究会　代表　山下博由　印省略
連絡先　前川盛治（泡瀬干潟を守る連絡会事務局長）
090-5476-6628

浚渫予定地の絶滅危惧種の保全等について

私たちは、12月27日に、仮設航路（桟橋）浚渫の場所及びその周辺に「レッドデータおきなわ」に記載されている「絶滅危惧種」が19種生息している、ﾄｳｶｲﾀﾏﾏｷは国内最大規模の生息地、ﾌｼﾞｲﾛﾊﾏｸﾞﾘは日本でここでしか生息が確認されていない、ﾋﾒﾂﾒﾀｶﾞｲ沖縄型は新種の可能性がある等を示し、それらの種の調査と保全を要請した。

また、ｱﾜｾｶﾆﾀﾞﾏｼﾏﾒｱｹﾞﾏｷ（仮称）、ｳﾐｳﾁﾜ属の1種、ﾐﾙ属の1種が泡瀬で確認されそれが新種の可能性があることから、その保全を求め、浚渫地周辺の浅場のｳﾐｴﾗの保全も要請した。しかし、事業者（総合事務局・県港湾課）は、それらの種の調査もせず、浚渫工事を始めている。また、事業者はジャングサマテガイを、埋立予定地に4個体、埋立予定地外で5個体発見しているが、埋立予定地内は消失する、予定地外はモニタリングを行う等としている。私たちは、環境への配慮が全くなく、絶滅危惧種の保全を示していない事業者の態度を改めるよう再度要請する。

要請

1. **浚渫工事を中断し、トウカイタママキ、フジイロハマグリ等の貝の調査を行い、その保全策を示すこと。**
2. ｱﾜｾｶﾆﾀﾞﾏｼﾏﾒｱｹﾞﾏｷ（仮称）、ｳﾐｳﾁﾜ属の1種、ﾐﾙ属の1種、浚渫地周辺の浅場のｳﾐｴﾗについて、早急に調査し、その保全策を示すこと。
3. 埋立予定地内のジャングサマテガイの保全策を示すこと。
4. 環境監視委員会を早急に開催・報告しその保全について指導助言を受けること。また、その間工事を中断すること。
5. アセス書に示した対応（事業者見解）を遵守すること。

表1
泡瀬の仮設航路浚渫予定地で確認された
「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物　動物編　レッドデータおきなわ」
に記載された貝類

種和名 （グレー地は浚渫予定地に生息）	改訂RDB評価	浚渫予定地 海草藻場	浚渫予定地 砂洲
ナノハナガイ	絶滅危惧IA類	FD	
ハートガイ	絶滅危惧IB類		L
トウカイタママキ	絶滅危惧IB類		L
ニッコウガイ	絶滅危惧IB類	D	
ジャングサマテガイ	絶滅危惧IB類	D	
マダライオウハマグリ	絶滅危惧IB類	FD	L
シラオガイ	絶滅危惧IB類	D	L
ヒメオリイレムシロ	絶滅危惧II類	L	
カブラツキガイ	絶滅危惧II類	D	
カゴガイ	絶滅危惧II類		NL
ヒラセザクラ	絶滅危惧II類	L	
フジイロハマグリ	絶滅危惧II類		NL
ウスカガミ	絶滅危惧II類	L	
オハグロガイ	準絶滅危惧	L	
リュウキュウサルボウ	準絶滅危惧	D	
ソメワケグリ	準絶滅危惧	FD	L
ホソスジヒバリガイ	準絶滅危惧	D	
サザナミマクラ	準絶滅危惧	L	
チヂミウメノハナ	準絶滅危惧	D	
オキナワヒシガイ	準絶滅危惧	L	
エマイボタン	準絶滅危惧	L	
ユキガイ	準絶滅危惧	D	
コニッコウガイ	準絶滅危惧	D	
ミガキヒメザラ	準絶滅危惧	L	
トゲウネガイ	準絶滅危惧	L	
ハスメザクラ	準絶滅危惧	FD	
ネコジタザラ	準絶滅危惧	D	
ゴイシザラ	準絶滅危惧	L	
ヒメツメタガイ沖縄型	情報不足		L
ニライカナイゴウナ	情報不足		L
ウネイチョウシラトリ	情報不足	D	
チリメンカノコアサリ	情報不足		L
トモシラオガイ	情報不足	D	
フキアゲアサリ	情報不足		L

L=生息、FD=新鮮な殻を確認、D=殻を確認、NL=近接地に生息

表2　浚渫予定地での確認種数

改訂RDB評価	生息	死殻	合計
絶滅危惧IA類	0	1	1
絶滅危惧IB類	4	2	6
絶滅危惧II類	3	1	4
準絶滅危惧	8	7	15
情報不足	4	2	6
合計	19	13	32

フジイロハマグリ（「改定・レッドデータおきなわ」絶滅危惧Ⅱ類）

写真提供：山下博由氏
発見者：照屋清之介氏

このフジイロハマグリは、日本で泡瀬干潟の浚渫場所近くの砂州周辺のみで生息が確認されている。金武湾などにもいるといわれるが生貝の確認は泡瀬砂州周辺だけである。浚渫が行われると、絶滅のおそれがある。

事業者は、この種を未だ確認していないが、浚渫工事は続行するとしている。

「改定・レッドデータおきなわ」での記載

和名： フジイロハマグリ　　分類： マルスダレガイ目マルスダレガイ科
学名： Callista erycina（Linnaeus, 1758）　　カテゴリー： 絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー： 該当なし
形態： 殻長約6cm、卵楕円形。殻頂は前方に寄る。殻表には光沢があり、太い成長輪肋に覆われる。放射彩を持つ。内面後端は紫彩される。
分布の概要： 奄美以南に分布するとされているが、琉球列島における分布域は、沖縄島金武湾などの特定の地域に限られる。
生息地の条件： フジイロハマグリは、内湾域潮下帯の安定した砂底域を生息場所としている。
現在の生息状況： 沖縄県内におけるフジイロハマグリの生息確認地点は、金武湾湾口部（平安座島沖）および中城湾泡瀬干潟の2地域。泡瀬干潟では、照屋清之介氏により通信施設南岸沖の低潮帯砂底域から見出されている。
学術的意義・評価： フジイロハマグリの生息環境である内湾潮下帯砂底域は、琉球列島においては限られた生物生息環境である。フジイロハマグリは、沖縄の海岸環境の多様性を認識するうえで重要な指標種である。また、沖縄島のフジイロハマグリ個体群は、隔離個体群として生物地理学的に重要。
生存に対する脅威： 泡瀬干潟におけるフジイロハマグリの生息域では、埋め立て工事がおこなわれている。金武湾の生息域では、大規模な浚渫が行われている。沖縄県内のフジイロハマグリの生息条件は、すべての生息地で急激に悪化しており、個体群の存続が危ぶまれる。　　執筆者名：名和純

トウカイタママキ（「改定・レッドデータおきなわ」絶滅危惧Ⅱ類）

（トウカイタママキ　写真：長田秀巳）

和名：トウカイタママキ　　分類：マルスダレガイ目バカガイ科

学名：Mactra pulchella Philippi, 1852

カテゴリー：絶滅危惧ＩＢ類（EN）

環境省カテゴリー：該当なし

形態：殻長約１．５～２cm、三角形の二枚貝。殻頂は後方に寄り、紫彩される。殻表は紫褐色、２本の白い放射色帯がある。内面は紫色。

分布の概要：屋久島、種子島、奄美大島、沖縄島に分布。中国大陸南岸にも分布するとされている。

生息地の条件：トウカイタママキは、内湾低潮帯～潮下帯の砂底域を生息場所とする。本種の生息する砂底域は、内湾域全体における環境傾度の推移の上に成り立っている安定した環境である。

現在の生息状況：沖縄県内におけるトウカイタママキの生息域は、沖縄島大浦湾および中城湾泡瀬干潟に限られる。いずれの地域でも、一回の調査で１，２個体が見出される程度と生息密度は低い。

学術的意義・評価：トウカイタママキは、琉球列島の海産貝類の中で最も分布域の狭い種のうちの一つであり、琉球列島の海岸生物の由来や海岸環境の成立を考える上で重要な種である。

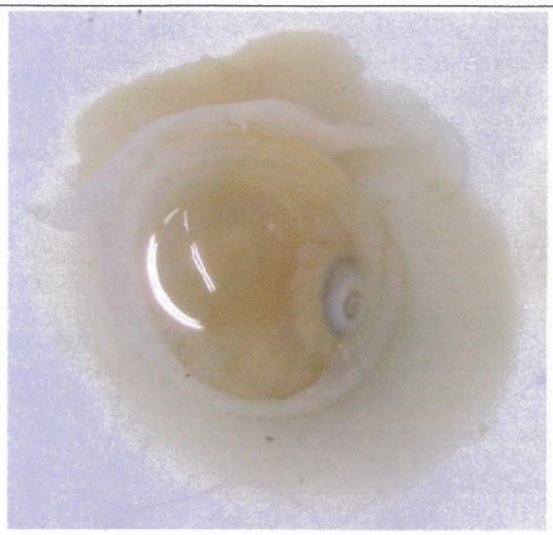
生存に対する脅威：泡瀬干潟の生息域では、埋め立て工事が行われている。また、大浦湾の生息域では流域開発や橋梁工事に伴う土砂堆積が進行している。トウカイタママキの沖縄個体群は、絶滅リスクの高い状態にあると考えられる。

参考文献：松隈明彦，１９８６．バカガイ科．“決定版生物大図鑑貝類”，奥谷喬司編，世界文化社，東京．　　執筆者名：名和純

ヒメツメタガイ沖縄型についての追加文書（山下博由氏）

ヒメツメタガイ沖縄型：「改訂レッドデータおきなわ」において情報不足のカテゴリーに入れられている重要な種．これまで，沖縄本島の羽地海域でしか生息が確認されておらず，中城湾での生息が初めて確認された．沖縄諸島に分布するツメタガイ属の唯一の種で，分類学的位置付けが確定していない（新種や新

亜種の可能性もある)．泡瀬の浚渫予定地の砂州に豊富に生息しているが，同砂州以外では確認されていない．泡瀬は本種の，沖縄本島で２箇所目，中城湾で唯一の貴重な生息確認地である．

<table>
<tr>
<td>
ヒメツメタガイ沖縄型　山下博由</td>
<td> 
ヒメツメタガイ沖縄型　山下博由</td>
</tr>
<tr>
<td>
オハグロガイ　写真：水間八重</td>
<td>
シラオガイ　写真：水間八重</td>
</tr>
</table>

浚渫場所の 19 種の生貝の中の、6 種の生貝の写真

ジャングサマテガイ（ＩＢ類）、トウカイタママキ（ＩＢ類、事業者未確認）、シラオガイ（ＩＢ類）、フジイロハマグリ（Ⅱ類、事業者未確認）、オハグロガイ（準絶滅、事業者未確認）、ヒメツメタガイ沖縄型（情報不足、事業者未確認）

ｼﾞｬﾝｸﾞｻﾏﾃｶﾞｲ、山下博由氏提供

トウカイタママキ　長田英巳氏提供

シラオガイ、水間八重氏提供

フジイロハマグリ、山下博由氏提供

オハグロガイ、水間八重氏提供

ヒメツメタガイ沖縄型、山下博由氏提供